

平成 25 年度

日置市教育委員会の点検・評価報告書

平成 26 年 3 月
日置市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
(1)	制度の趣旨	1
(2)	点検・評価の対象	2
(3)	点検・評価の時期	3
(4)	点検・評価のフロー	4
2	教育委員の活動状況及び点検・評価結果	5
(1)	教育委員の活動状況（教育総務課）	5
(2)	生徒指導の充実（学校教育課）	8
(3)	青少年事業とリーダーの育成（社会教育課）	11
(4)	教育委員による評価	15
(5)	外部評価委員による評価	16
3	参考資料	17
(1)	各担当課の評価シート	18
(2)	日置市教育委員会外部評価委員会設置要綱	35

1 はじめに

(1) 制度の趣旨

日置市教育委員会は、日置市の基本目標を「夢をもち あしたをひらく心豊かな人づくり」とし、「21世紀を生き抜く知恵と健康な体，豊かな心を備え，生涯にわたって意欲的に自己実現を目指す市民」「伝統・文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養い，主体性，創造性，国際性を備えた市民」の実現を目指しています。

さらに基本目標を具現化するために，目指す方向として「～郷土の教育的な伝統や風土を生かした『風格ある教育』の推進～」を掲げ，6項目の重点を挙げ，取り組んでいます。

- (1) きまりを守り，礼節を重んじる教育の推進
- (2) 文(芸術・学問)と武(心身の鍛練)の両立を重んじる教育の推進
- (3) 自然や歴史と伝統文化を重んじる教育の推進
- (4) 安全・安心を重んじる教育環境づくりの推進
- (5) 協働社会によるまちづくりを重んじる生涯学習の推進
- (6) 健康づくりを重んじる生涯スポーツの推進

国においては平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され，教育委員会は，毎年，教育行政事務に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い，その結果について報告書を議会に提出し，公表することが規定されています。

そこで，本市教育委員会では，これまで以上に効果的な教育行政の推進に資するとともに，市民の皆様への説明責任を果たすため，教育委員会の所管する主な事務事業の点検・評価を行うことにします。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

第27条 教育委員会は，毎年，その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，これを議会に提出するとともに，公表しなければならない。

2 教育委員会は，前項の点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

(2) 点検・評価の対象

①教育委員の活動状況（毎年実施）

- ・ 定例及び臨時教育委員会の会議の状況
- ・ 定例・臨時教育委員会以外の活動状況

②教育委員会の所管する事務事業

日置市教育振興基本計画に掲げられた施策及び事務事業のうち、「市民が知りたい、分かりやすいテーマ」であり、しかも重要な施策であるにとらえている項目を教育委員会事務局で協議・選択し、教育委員会で選定します。

平成25年度においては下記の2項目を選択することにします。

① 本市がこれまで取り組んできた「生徒指導の充実」（教育振興基本計画P15）がどのような状況かを明らかにするために「**生徒指導の充実**」を評価項目に選定しました。

② 子どもたちの豊かな人間性や主体性，責任感を育むために，異年齢の子どもと交流し，様々な体験を積み重ねることや子ども会活動の活性化を図り，そのリーダーとなる子どもの資質を高め，次代を担う国際人として通用する青少年リーダーを育ていくことが大切です。本市の青少年事業がどのような状況かを明らかにするために「**青少年事業の充実とリーダーの育成**」（教育振興基本計画P27）を評価項目に選定しました。

また，点検・評価を行う上では，下記の項目に留意します。

- 日置市が行う行政評価との整合性があること。
- 成果を重視した行政運営を行うため，事後評価を基本とすること。
- 評価の客観性，透明性を確保するための外部評価を導入すること。
- 評価の対象・方法は，毎年度見直しを行うこと。

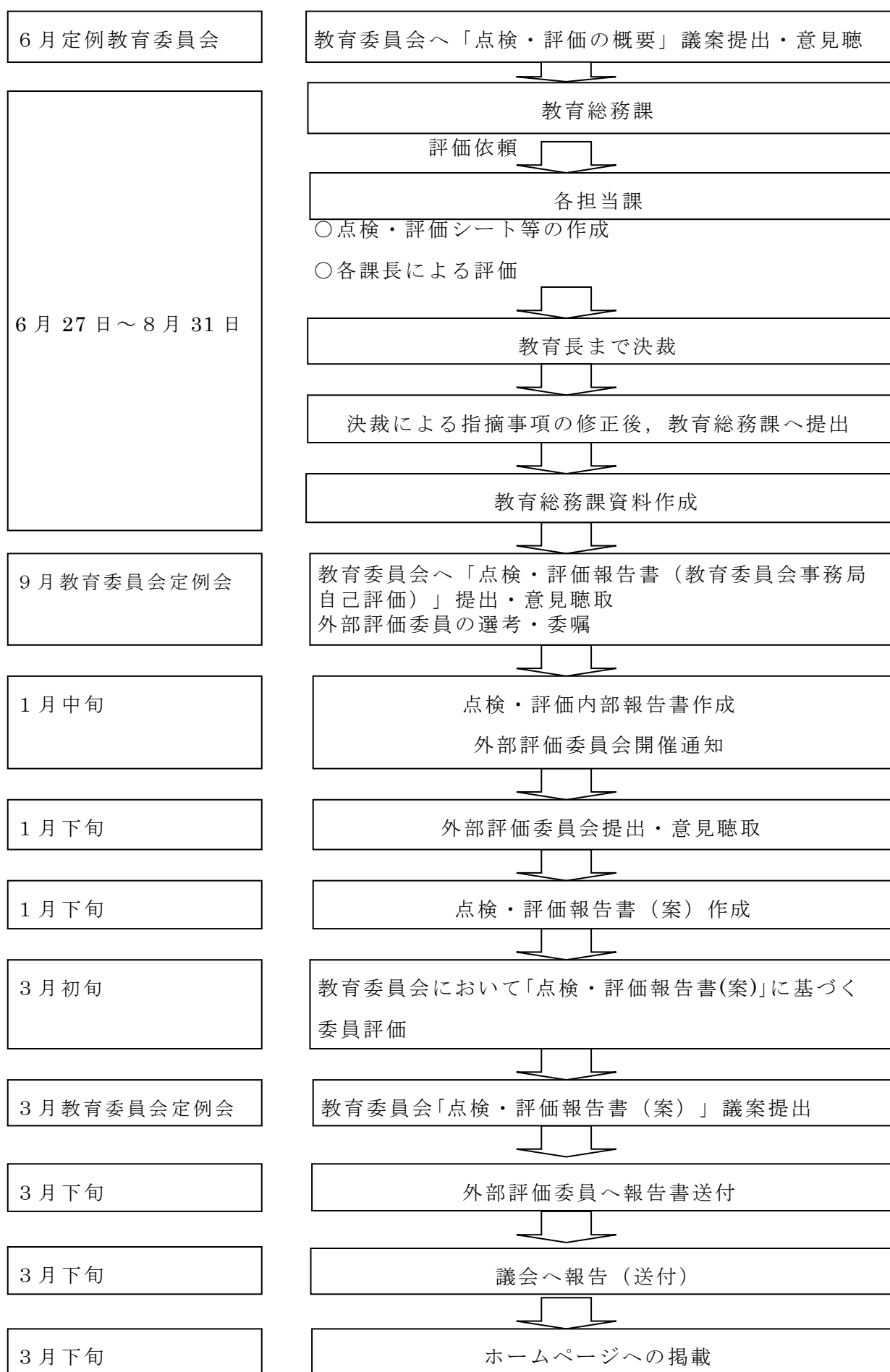
(3) 点検・評価の時期

翌年度事業に，点検・評価の結果を活用するために，翌年度予算編成前の毎年10月までに行う。

点検・評価の手順

- 教育委員及び教育委員会事務局による自己評価
- 外部評価委員による評価
- 報告書の作成
- 教育委員会で報告書の決定
- 議会への提出及び市民への公表

(4) 点検・評価のフロー



2 教育委員の活動状況及び点検・評価結果

(1) 教育委員の活動状況（教育総務課）

① 教育委員の選任状況

職名	氏名	職業	在任期間	就任年月日
委員長	内村 友治	会社員	H24.6.11 ～ H28.6.10	H20. 6.11
委員長職務代理者	比良 信幸	無職	H25.6.11 ～ H29.6.10	H25. 6.11
委員	折田 智子	社会福祉 法人園長	H22.6.11 ～ H26.6.10	H22. 6.11
委員	中島 辰矢	医療法人 職員	H25.6.11 ～ H29.6.10	H25. 6.11
教育長	田代 宗夫	教育長	H25.6.11 ～ H29.6.10	H17. 6.11

※教育委員（教育長を含む）の任期は4年

② 会議の開催状況（平成24年度実績）

定例会	12回（毎月）
臨時会	3回

③ 審議状況

ア) 付議案件数

議案	34件
請願	0件
報告	23件
協議	2件

イ) 会議に付された主な案件

- ・教育施策に関する基本的な方針を定めるもの
- ・教育委員会規則の制定又は改廃のもの
- ・教育委員会事務局職員の任免のもの
- ・議会に提案する議案についての意見に関するもの
- ・奨学生採用に関するもの
- ・各種委員会の委員の委嘱に関するもの
- ・教育長の選任に関するもの
- ・教育に係る表彰に関するもの
- ・教育振興基本計画に関するもの

④ 学校訪問等

ア) 学校訪問

学校の状況を教育委員が直接見聞する機会として、学校訪問を実施し、学校長等と意見交換しました。

訪問日時	学校名
5月14日	日新小学校
5月28日	湯田小学校
6月4日	上市来中学校
6月18日	伊集院北小学校
6月25日	住吉小学校
9月20日	伊作小学校※
9月28日	伊集院小学校※
10月15日	東市来中学校※

※は鹿児島教育事務所との合同訪問

イ) 教育委員自主調査

教育を取り巻く実態を把握するためPTA母親と意見交換しました。

訪問日時	訪問先
10月4日	日置市PTA母親研修会

ウ) その他の訪問

市内学校行事や教育委員会が所管する行事等を参観し，地域の実態の把握に努めました。また，県，九州地区で開催される各種研修会に参加し，国や県の動向について研修しました。

訪問日時	件名	訪問日時	件名
4月6日	小・中学校入学式	7月31日	市教育講演会
4月9日	幼稚園入園式	7月31日	縣市町村教育委員研修会
4月10日	転入教職員宣誓式	9月16日	中学校体育大会
4月19日	日置地区教委連絡協議会会計監査	9月23日	小学校運動会
	県教育行政説明会	9月30日	小学校運動会
4月25日	縣市町村教育委員会連絡協議会幹事会	10月7日	各地域運動会
5月18日	日置・鹿児島郡地区教育委員会連絡協議会総会	10月17日	陸上記録会
5月20日	伊集院小学校運動会	10月28日	妙円寺詣り行事大会
5月21日	奨学生選考委員会(委員長)	10月29日	縣市町村教委連絡協議会幹事会
5月23日	縣市町村教育委員会連絡協議会総会	11月3日	地域文化祭
5月27日	伊作小学校運動会	11月4日	地域文化祭(日吉)
6月23日	市子ども読書活動推進大会	11月7日	音楽発表会(各地域開催)
7月19日	日置市立学校在り方説明会(伊集院)	12月1日	市生涯学習推進大会
7月23日	日置市立学校在り方説明会(東市来)	1月3日	日置市成人式
7月24日	日置市立学校在り方説明会(日吉)	2月16日	南九州美術展特別賞受賞式
7月26日	日置市立学校在り方説明会(吹上)	3月13日	中学校卒業式
7月15日	県民体育大会選考会	3月15日	幼稚園卒業式
7月25日	地域水泳記録会	3月22日	小学校卒業式

(2) 生徒指導の充実（学校教育課）

ア) 担当課による評価

【現状と課題】

本市における生徒指導上の現状と課題を各種調査結果を基に見ると、いじめの件数は、平成23年の7件から、平成24年は、52件に増えています。このことは、全国的にいじめ問題に関する関心が高まり、国による実態調査が行われたことやいじめについては「どの学校でも、どの子どもにも起こり得る」「1件でも多く発見し、1件でも多く解決する」という認識に立って、学校がいじめ問題に取り組んだ結果であると考えています。これまで報告されたいじめは、全て解決しています。

不登校については、平成23年の小学校12人、中学校28人の計40人から、平成24年の小学校9人、中学校28人の計37人に減少しています。平成21年の51人と比べると、14人減少しています。また、全国学力・学習状況調査においては、児童生徒が「学校の決まり・規則を守っている」と回答した割合が、小中学校とも95%を越え、国・県の数値よりも高い割合になっており、校内での暴力行為も報告されていません。

課題としては、児童生徒を含めた保護者への支援が必要な家庭の増加があり、現在、子ども支援センターを中心に不登校対策、家庭との連携・支援に取り組んでいます。

加えて、急速に発展する社会の情報化に対応するため、児童生徒の情報活用能力をはぐくむとともに、情報モラルの育成、ネット上のいじめへ対応の充実が求められています。

【これからの施策の方向性】

教育活動全体で道徳教育の充実に努めるとともに、家庭や地域との連携を深め、児童生徒の道徳性を高める取組が社会全体で進められるように努めます。本市で取り組んでいる「風格ある教育」を柱として「人間尊重の精神」、「伝統と文化の尊重」、「公共の精神」等の取組を推進します。基本的な生活習慣の確立を目指しながら、心に届く生徒指導体制の確立に努めるとともに、いじめや暴力行為等の問題行動、インターネット等の普及に伴う新たな課題に、学校、家庭、地域、関係機関等が連携して対応していきます。

また、学校を取り巻く、様々な環境をつなぐ中核的な役割を担う「子ども支援センター」の充実を図ります。

【評価項目を取り巻く環境】

本市における児童生徒のいじめの状況は、平成23年の小学校3件、中学校4件、計7件から平成24年は小学校18件、中学校34件、計52件と増加していますが、この件数はいじめの認知（発見できた）件数であり、認知件数の増加については、積極的な捉え方ができます。認知後は、すべての学校が、家庭や地域と積極的に連携を強め、すべてのいじめの解消につなげています。また、携帯電話やパソコンを用いた「ネットいじめ」も増加しており、情報モラルの教育の重要性も年々高まっています。

不登校については、小学校、中学校のいずれにおいても在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒の割合は、年々減少にありますが中学校の不登校の割合は、国・県に比べ下回っているものの、小学校は、上回っています。小学校時の早い段階での不安や悩みに適切に対応できるよう相談体制の充実を図るとともに、一人一人の状況に応じた個別支援計画をもとに、子ども支援センター等を活用しながら、家庭、関係機関と連携し、継続的に対応する必要があります。

【成果を測定する指標】

事務事業名	評価の対象となる項目	23年度実績値
いじめの根絶	アンケート実施回数（1校あたり）	3
	いじめの認知件数（小学校）	3
	いじめの認知件数（中学校）	4
	インターネット・携帯電話等の安全教育の実施率	100%
	道徳教育推進教師の配置率	100%
不登校児童生徒の解消	教育相談員の派遣回数	179
	スクールカウンセラーの配置数	50
	子ども支援センターの相談件数	1,495
	ふれあい教室の在籍者数	5
	不登校児童数	12
	不登校生徒数	28

※不登校児童生徒数は、30日以上欠席したものの。

【個別事業の評価】

事務事業名	評価の対象となる項目	23実績値	24目標値	24実績値	評価	
					達成度	方向性
いじめの根絶	アンケート実施回数（1校あたり）	3	5	5	A	b
	いじめの認知件数（小学校）	3	解消率100%	18 解消率100%	A	a
	いじめの認知件数（中学校）	4	解消率100%	34 解消率100%	A	a
	インターネット・携帯電話等の安全教育の実施率	100%	100%	100%	A	b
	道徳教育推進教師の配置率	100%	100%	100%	A	a
不登校児童生徒の解消	教育相談員の派遣回数	179	200	340	A	a
	スクールカウンセラーの配置数	50	50	55	A	b
	子ども支援センターの相談件数	1,495	1,500	1,653	A	a
	ふれあい教室の在籍者数	5	10	8	A	b
	不登校児童数	12	10	9（2）	A	a
	不登校生徒数	28	25	28（3）	B	a

※不登校児童生徒数は、30日以上欠席したもの。（ ）は、解消した内数。

【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。

方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

【全体評価】

評価項目の各事業は概ね成果をあげていると認められますが、事業を実施する上で、改善を要する項目が見られます。

【担当課総評】

いじめの根絶については、これまで同様、教職員一人一人が危機意識を持ち、各関係機関と十分な連携を図り、情報を共有することが重要です。また、教育活動全体で道徳教育の充実に努めるとともに、家庭や地域との連携を深め、児童生徒の道徳性を高める取組が社会全体で進められるように施策を講じる必要があります。

また、児童生徒を含めた保護者への支援が必要な家庭の増加が見られ、子ども支援センターを中心に継続的に取り組む必要がありますが、支援体制の充実に向けた検討も行う必要があります。

加えて、急速に発展する社会の情報化に対応するため、児童生徒の情報活用能力をはぐくむとともに、情報モラルの育成、ネット上のいじめへ対応の充実が必要です。

(3) 青少年事業の充実とリーダーの育成（社会教育課）

ア) 担当課による評価

【現状と課題】

子どもたちの豊かな人間性や主体性，社会性，責任感を育むために，異年齢の子どもと交流し，自然体験等の様々な体験を積み重ねることが重要です。

また，各子ども会活動の活性化を図るために，そのリーダーとなる子どもの資質を高め，次代を担う国際人として通用する青少年リーダーを育てていくことが大切です。

【これから施策の方向性】

異年齢集団による自然体験やボランティア体験を通して，自らの感性を高め，主体的に生きていく能力の育成と次代を担うリーダーの育成を図っていきます。

中・高生をアメリカに派遣し，ホームステイを通して，国際交流の機会の提供と国際感覚の醸成を図っていきます。

【評価項目を取り巻く環境】

核家族化，少子化等による家族形態の変化や地域のつながりの希薄化に伴い，子どもが身に付けるべき礼儀や生活習慣，規範意識や社会的マナーが十分備わっていないなど，家庭や地域における教育力の低下が指摘されています。

また，地域社会では，子どもたちの見守りや子育て支援，青少年健全育成等の取組，世代間交流を通じた様々な体験による人間性の育成等が求められています。

本市は，子ども会やPTA活動が盛んで，家庭教育の充実，青少年の健全育成に大きな役割を果たしています。

今後も，社会教育関係団体との連携を密にするとともに，本市において昔から引き継がれている教育的伝統を生かした「風格ある教育」を推進していくことが必要です。

【成果を測定する指標】

事務事業名	評価の対象となる項目	23実績値
青少年リーダー研修 「チャレンジいおう島」	参加者数	48
	募集定員	48
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5
日置市青少年海外派遣事業	参加者数	6
	募集定員	8
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5
学寮事業 伊集院「ゆすいん学寮」	参加者数	36
	募集定員	36
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3
学寮事業 東市来「こけけふるさと学寮」	参加者数	18
	募集定員	30
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2
学寮事業 日吉「ふるさと学寮」	参加者数	16
	募集定員	30
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2
学寮事業 吹上「ふるさと学寮」	参加者数	24
	募集定員	20
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3
子ども会リーダー・育成指導者研修事業 伊集院	参加者（子ども）	282
	参加者（指導者・育成者等）	196
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3
子ども会リーダー・育成指導者研修事業 東市来	参加者（子ども）	248
	参加者（指導者・育成者等）	150
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2
子ども会リーダー・育成指導者研修事業 日吉	参加者（子ども）	35
	参加者（指導者・育成者等）	35
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3
子ども会リーダー・育成指導者研修事業 吹上	参加者（子ども）	102
	参加者（指導者・育成者等）	55
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2

【個別事業の評価】

事務事業名	評価の対象となる項目	23実績値	24目標値	24実績値	評価	
					達成度	方向性
青少年リーダー研修 「チャレンジいおう島」	参加者数	48	48	45	B	a
	募集定員	48	50	48	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5	5	5	A	a
日置市 青少年海外派遣事業	参加者数	6	6	6	A	a
	募集定員	8	10	16	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5	5	5	A	a
学寮事業 伊集院 「ゆすいん学寮」	参加者数	36	36	36	A	a
	募集定員	36	40	40	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	a
学寮事業 東市来 「こけけふるさと学寮」	参加者数	18	30	18	B	b
	募集定員	30	30	30	A	b
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
学寮事業 日吉 「ふるさと学寮」	参加者数	16	30	29	B	a
	募集定員	30	30	29	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
学寮事業 吹上 「ふるさと学寮」	参加者数	24	20	26	A	a
	募集定員	20	20	33	A	b
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	b
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 伊集院	参加者（子ども）	282	200	237	A	a
	参加者（指導者・育成者等）	196	200	206	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	a
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 東市来	参加者（子ども）	248	255	231	B	a
	参加者（指導者・育成者等）	150	152	153	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 日吉	参加者（子ども）	35	36	35	B	a
	参加者（指導者・育成者等）	35	36	35	B	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	a
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 吹上	参加者（子ども）	102	100	83	B	a
	参加者（指導者・育成者等）	55	50	44	B	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a

【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。
方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

【全体評価】

評価項目の各事業は概ね成果を挙げています。ただし、事業によっては達成度又は方向性を見直しが必要です。

【担当課総評】

本市の青少年育成関係事業の参加状況はおおむね良好です。

参加した児童生徒は、豊かな人間性や主体性、社会性、責任感などが培われていることが報告書等からも伺えます。

今後は、体験したことをボランティア活動等で発揮し、リーダーとしての自覚を高めていけるよう更に学校・家庭・地域と連携しながら活用を図る必要があります。

子ども会活動は、各地域でリーダー研修会、育成指導者研修会等を実施し、異年齢の子どもたちの交流や様々な体験活動が展開されています。また、第3土曜日を中心とした活動に中学生の参加もよくなってきています。今後も関係団体との連携を図り、子ども会活動の活性化を図っていきます。

(4) 教育委員による評価

① 教育委員の活動状況（教育総務課）

市内学校行事や教育委員会が所管する行事等を参観し，地域の実態の把握に努め，県，九州地区で開催される各種研修会に参加し，県や国の動向について積極的に研修を行った。

また，教育委員自主研修として日置市PTA母親研修会に参加し，参加者らとグループ討議を行うなど教育を取り巻く実態把握に努めた。

今後とも形式的な学校訪問以外にも教育の現場の関係者と話し合う場の設定を増やす必要があると考える。

② 生徒指導の充実（学校教育課）

近年，いじめが起因とされる事件や事故が多数報道される中，本市においても軽微ないじめと認められるものが多数報告されている。これまで同様，未然防止，早期発見，早期解決を基本に，いじめを生まない環境づくりに努力していく必要がある。

不登校児童生徒の問題については，社会を取り巻く環境の変化や価値観の多様化など様々な問題が背景にあり，解決に向けては困難であると思うが，児童生徒一人一人をサポートできる相談体制，指導体制の充実を期待すると同時に社会教育と一体となった青少年健全育成の観点からもこの解決に積極的に取り組んでほしい。

③ 青少年事業の充実とリーダーの育成(社会教育課)

子ども会活動やその他の青少年健全育成に関する行事の中学生の参加が依然として低い。学校関係者やスポーツ少年団などと十分な連携を図り，早急な改善が必要であると考ええる。

④ 総評

今回の点検評価項目である「生徒指導の充実」と「青少年事業の充実とリーダーの育成」については，大きな成果を上げているとは言えないが現状を維持できており，継続的な取組が期待される。2つの点検項目については，学校教育と社会教育さらには地域と関係機関とが一体となった取組の必要性を感じる。

(5) 外部評価委員による評価

①外部評価委員会の開催状況

- ・開催日時 平成26年3月19日(水) 15時00分～16時00分
- ・開催場所 日置市中央公民館 研修2・3
- ・出席者 評価委員 森永忠秋委員 下笠政文委員 西陽三委員
永井章子委員

・説明のための出席者等

(教育長)田代宗夫 (教育次長)内田隆志 (社会教育課長)今村義文
(教育総務課長補佐)横枕広幸 (学校教育課長補佐)下古立浩
(社会教育主事)山田哲夫 (教育総務係長)宮前敏和

・内容

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">(1) 開会(2) 委嘱状交付(3) 教育長あいさつ(4) 会長・副会長互選(下笠会長・森永副会長就任)(5) 教育委員会の点検・評価について(概要説明)
点検・評価結果について(評価項目の説明)
①教育委員の活動状況(教育総務課)
②生徒指導の充実(学校教育課)
③青少年事業の充実とリーダーの育成(社会教育課)(6) 閉会 |
|--|

②外部評価委員による評価結果

教育委員による学校訪問は、外部の人が学校を訪れる機会とあって、普段とは違った緊張感があり、学校現場の活性化も期待できる。積極的に学校訪問を行うことは大事である。

いじめについては、悪質なケースはないということであるが、「どの学校でも、どの子どもにも起こり得る」「1件でも多く発見し、1件でも多く解決する」といった姿勢で引き続き取り組んでほしい。

不登校については、子ども支援センターを中心に学校、家庭、地域、行政と十分連携をとってその解決にあたってほしい。原因の一つに家庭環境の問題が指摘されているが、自治会長や民生委員・児童委員等の積極的な活用も検討する必要がある。

青少年事業については、高校生のボランティア意識が高く、これまでの事業が良い結果につながっているものであると考える。今後もその充実に努めていただきたい。

最後に、いじめ、不登校、青少年事業については、学校、家庭、地域、行政が一体となってその解決や充実に取り組む必要がある。本市が全市挙げて取り組んでいる「おひさま運動」の充実は、これらの問題を解決する運動であると思うので、その充実に努めてほしい。

3 参考資料

(1) 各担当課の評価シート

教育委員会活動の点検・評価総括表
【担当課による評価総括表】

担当課 学校教育課

点検評価項目	生徒指導の充実
1 評価項目の現状・考え方等	<p>【現状と課題】</p> <p>本市における生徒指導上の現状と課題を各種調査結果を基に見ると、いじめの件数は、平成23年の7件から、平成24年は、52件に増えています。このことは、全国的にいじめ問題に関する関心が高まり、国による実態調査が行われたことやいじめについては「どの学校でも、どの子どもにも起こり得る」「1件でも多く発見し、1件でも多く解決する」という認識に立って、学校がいじめ問題に取り組んだ結果であると考えています。これまで報告されたいじめは、全て解決しています。</p> <p>不登校については、平成23年の小学校12人、中学校28人の計40人から、平成24年の小学校9人、中学校28人の計37人に減少しています。平成21年の51人と比べると、14人減少しています。また、全国学力・学習状況調査においては、児童生徒が「学校の決まり・規則を守っている」と回答した割合が、小中学校とも95%を越え、国・県の数値よりも高い割合になっており、校内での暴力行為も報告されていません。</p> <p>課題としては、児童生徒を含めた保護者への支援が必要な家庭の増加があり、現在、子ども支援センターを中心に不登校対策、家庭との連携・支援に取り組んでいます。</p> <p>加えて、急速に発展する社会の情報化に対応するため、児童生徒の情報活用能力をはぐくむとともに、情報モラルの育成、ネット上のいじめへ対応の充実が求められています。</p> <p>【これからの施策の方向性】</p> <p>教育活動全体で道徳教育の充実をめるとともに、家庭や地域との連携を深め、児童生徒の道徳性を高める取組が社会全体で進められるように努めます。本市で取り組んでいる「風格ある教育」を柱として「人間尊重の精神」、「伝統と文化の尊重」、「公共の精神」等の取組を推進します。基本的な生活習慣の確立を目指しながら、心に届く生徒指導体制の確立に努めるとともに、いじめや暴力行為等の問題行動、インターネット等の普及に伴う新たな課題に、学校、家庭、地域、関係機関等が連携して対応していきます。</p> <p>また、学校を取り巻く、様々な環境をつなぐ中核的な役割を担う「子ども支援センター」の充実を図ります。</p>
2 評価項目を取り巻く環境	<p>本市における児童生徒のいじめの状況は、平成23年の小学校3件、中学校4件、計7件から平成24年は小学校18件、中学校34件、計52件と増加していますが、この件数はいじめの認知（発見できた）件数であり、認知件数の増加については、積極的な捉え方ができます。認知後は、すべての学校が、家庭や地域と積極的に連携を強め、すべてのいじめの解消につなげています。また、携帯電話やパソコンを用いた「ネットいじめ」も増加しており、情報モラルの教育の重要性も年々高まっています。</p> <p>不登校については、小学校、中学校のいずれにおいても在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒の割合は、年々減少にありますが中学校の不登校の割合は、国・県に比べ下回っているものの、小学校は、上回っています。小学校時の早い段階での不安や悩みに適切に対応できるよう相談体制の充実を図るとともに、一人一人の状況に応じた個別支援計画をもとに、子ども支援センター等を活用しながら、家庭、関係機関と連携し、継続的に対応する必要があります。</p>
4 担当課による評価結果	<p>評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。</p> <p>○ 評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度の向上又は方向性の見直しが必要である。</p> <p>○ 評価項目の各事業の進捗が遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。</p> <p>○ 評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。</p>

※該当する項目に○を記入してください。

－18－

5 担当課による総評

いじめの根絶については、これまで同様、教職員一人一人が危機意識を持ち、各関係機関と十分な連携を図り、情報を共有することが重要です。また、教育活動全体で道徳教育の充実に努めるとともに、家庭や地域との連携を深め、児童生徒の道徳性を高める取組が社会全体で進められるように施策を講じる必要があります。

また、児童生徒を含めた保護者への支援が必要な家庭の増加が見られ、子ども支援センターを中心に継続的に取り組む必要がありますが、支援体制の充実に向けた検討も行う必要があります。

加えて、急速に発展する社会の情報化に対応するため、児童生徒の情報活用能力をはぐくむとともに、情報モラルの育成、ネット上のいじめへ対応の充実が必要です。

事務事業評価一覧

事務事業名	評価の対象となる項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値	評価	
					達成度	方向性
いじめの根絶	アンケート実施回数(1校あたり)	3	5	5	A	b
	いじめの認知件数(小学校)	3	解消率100%	18	A	a
	いじめの認知件数(中学校)	4	解消率100%	34	A	a
	インターネット・携帯電話等の安全教育の実施率	100%	100%	100%	A	b
	道徳教育推進教師の配置率	100%	100%	100%	A	a
不登校児童生徒の解消	教育相談員の派遣回数	179	200	340	A	a
	スクールカウンセラーの配置数	50	50	55	A	b
	子ども支援センターの相談件数	1,495	1,500	1,653	A	a
	ふれあい教室の在籍者数	5	10	8	A	b
	不登校児童数	12	10	9 (2)	A	a
	不登校生徒数	28	25	28 (3)	B	a

※不登校児童生徒数は、30日以上欠席したもの。()は、解消した内数。

【評価】

達成度	
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。
方向性	
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課 学校教育課

点検評価項目	生徒指導の充実			
事業名	いじめの根絶			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 いじめの根絶に向けて、道徳教育の充実を図り、家庭、地域との連携を深め、児童生徒の道徳性を高め、いじめの根絶を目指します。</p> <p>【事業の概要】 いじめ等に関するアンケートを定期的に行い、常に実態を把握し、必要な場合は家庭や地域、教職員一体となってその問題解決にあたる。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	アンケート実施回数（1校あたり）	3	5	5
	いじめの認知件数（小学校）	3	解消率100%	18
	いじめの認知件数（中学校）	4	解消率100%	34
	インターネット・携帯電話等の安全教育の実施回数	100%	100%	100%
	道徳教育推進教師の配置率	100%	100%	100%
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	問題点を的確にとらえ効果的に実施している。	
	必要性	◎	いじめ根絶は重要な課題である。	
	効率性	○	アンケートの実施方法について検討する必要があります。	
	公平性	—		
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	0 千円	平成26年の取組み	今後も施策の充実を図ります。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	各事業は目標値を達成している。	
	方向性	a	一部改善を要する部分はあるが、方向性は良い。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課 学校教育課

点検評価項目	生徒指導の充実			
事業名	不登校児童生徒の解消			
1 事業の目的, 概要等	<p>【事業の目的】 家庭や地域と連携し、不登校児童生徒の解消を目指す。</p> <p>【事業の概要】 不登校の理由を的確にとらえ、家庭、地域、関係機関との連携強化を図り、中核的機関とする子ども支援センターの機能強化を図る。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	教育相談員の派遣回数	179	200	340
	スクールカウンセラーの配置数	50	50	55
	子ども支援センターの相談件数	1,495	1,500	1,653
	ふれあい教室の在籍者数	5	10	8
	不登校児童数	12	10	9 (2)
	不登校生徒数	28	25	28 (3)
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	問題点を的確にとらえ効果的に実施している。	
	必要性	◎	教育を受ける権利を保障するため必要である。	
	効率性	○	子ども支援センターの相談体制について検討する必要があります。	
	公平性	—		
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	4,187 千円	平成 26 年の取組み	子ども支援センターの相談体制について検討する必要があります。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	各事業は目標値を達成している。	
	方向性	a	一部改善を要する部分はあるが、方向性は良い。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価総括表
【担当課による評価総括表】

担当課 社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成								
1 評価項目の現状・考え方等	<p>【現状】 子どもたちの豊かな人間性や主体性、社会性、責任感を育むために、異年齢の子どもと交流し、自然体験等の様々な体験を積み重ねることが重要です。 各子ども会活動の活性化を図るために、そのリーダーとなる子どもの資質を高め、次代を担う国際人として通用する青少年リーダーを育てていくことが大切です。</p> <p>【これから施策の方向性】 異年齢集団による自然体験やボランティア体験を通して、自らの感性を高め、主体的に生きていく能力の育成と次代を担うリーダーの育成を図っていきます。 中・高生をアメリカに派遣し、ホームステイを通して、国際交流の機会の提供と国際感覚の醸成を図っていきます。</p>								
2 評価項目を取り巻く環境	<p>核家族化、少子化等による家族形態の変化や地域のつながりの希薄化に伴い、子どもが身に付けるべき礼儀や生活習慣、規範意識や社会的マナーが十分備わっていないなど、家庭や地域における教育力の低下が指摘されています。</p> <p>また、地域社会では、子どもたちの見守りや子育て支援、青少年健全育成等の取組、世代間交流を通じた様々な体験による人間性の育成等が求められています。</p> <p>本市は、子ども会やPTA活動が盛んで、家庭教育の充実、青少年の健全育成に大きな役割を果たしています。</p> <p>今後も、社会教育関係団体との連携を密にするとともに、本市において昔から引き継がれている教育的伝統を生かした「風格ある教育」を推進していく必要があります。</p>								
4 担当課による評価結果	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="448 1261 507 1361">○</td> <td data-bbox="507 1261 1482 1361">評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1361 507 1429"></td> <td data-bbox="507 1361 1482 1429">評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度の向上又は方向性の見直しが必要である。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1429 507 1503"></td> <td data-bbox="507 1429 1482 1503">評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1503 507 1570"></td> <td data-bbox="507 1503 1482 1570">評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。</td> </tr> </table> <p>※該当する項目に○を記入してください。</p>	○	評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。		評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度の向上又は方向性の見直しが必要である。		評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。		評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。
○	評価項目の各事業は順調に推移しており、現状の取り組みで良い。								
	評価項目の各事業は概ね成果をあげているが、事業によっては達成度の向上又は方向性の見直しが必要である。								
	評価項目の各事業の進捗に遅れが見られ、効果の低い事業を見直す必要がある。								
	評価項目の各事業の効果が低く、抜本的に見直す必要がある。								
5 担当課による総評	<p>本市の青少年育成関係事業の参加状況はおおむね良好である。 参加した児童生徒は、豊かな人間性や主体性、社会性、責任感などが培われていることが報告書等からも伺える。 今後は、体験したことをボランティア活動等で発揮し、リーダーとしての自覚を高めていけるよう、更に学校・家庭・地域と連携しながら活用を図る必要がある。 子ども会活動は、各地域でリーダー研修会、育成指導者研修会等を実施し、異年齢の子どもたちの交流や様々な体験活動が展開されている。また、第3土曜日を中心とした活動に中学生の参加もよくなってきている。 今後も、関係各団体との連携を図り子ども会活動の活性化を図っていく。</p>								

事務事業評価一覧

事務事業名	評価の対象となる項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値	評価	
					達成度	方向性
青少年リーダー研修 「チャレンジいおう島」	参加者数	48	48	45	B	a
	募集定員	48	48	48	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5	5	5	A	a
日置市 青少年海外派遣事業	参加者数	6	6	6	A	a
	募集定員	8	6	6	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5	5	5	A	a
学寮事業 伊集院 「ゆすいん学寮」	参加者数	36	36	36	A	a
	募集定員	36	36	36	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	a
学寮事業 東市来 「こけけふるさと学寮」	参加者数	18	30	18	B	b
	募集定員	30	30	30	A	b
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
学寮事業 日吉 「ふるさと学寮」	参加者数	16	30	29	B	a
	募集定員	30	30	30	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
学寮事業 吹上 「ふるさと学寮」	参加者数	24	20	26	A	a
	募集定員	20	20	20	A	b
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	b
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 伊集院	参加者（子ども）	282	200	237	A	a
	参加者（指導者・育成者等）	196	200	206	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	a
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 東市来	参加者（子ども）	248	255	231	B	a
	参加者（指導者・育成者等）	150	152	153	A	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 日吉	参加者（子ども）	35	36	35	B	a
	参加者（指導者・育成者等）	35	36	35	B	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3	A	a
子ども会リーダー ・育成指導研修事業 吹上	参加者（子ども）	102	100	83	B	a
	参加者（指導者・育成者等）	55	50	44	B	a
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2	A	a
【評価】						
達成度						
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。					
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。					
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。					
方向性						
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。					
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。					
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。					

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課 社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	青少年リーダー研修「チャレンジいおう島」			
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 離島での自然体験や野外活動，異年齢集団による共同生活を通して自らを律し他人とともに協調する態度や責任を果たす能力，思いやりの心を育て、主体的に活動するリーダーとしての資質を高め，次代を担う心豊かでたくましい青少年の育成を図る。 【事業の概要】 事前研修を通して，本研修への意欲を高揚する。本研修で，野外活動・自然体験活動を行う。事後研修では，本研修等を振り返り今後の子ども会活動に対しての意欲を向上する。 1 事前研修…事業説明，心構え，班編成，硫黄島に関する学習，班別研修 2 本研修……3泊4日，冒険ランドいおうじまでのテント生活，炊飯活動（5回），島内ウォークラリー，ジャンベ体験，魚釣り体験，他 3 事後研修…本研修の振り返り，反省，感想発表			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者数	48	48	45
	募集定員	48	48	48
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5	5	5
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	青少年に自然体験・生活体験をさせる上で大変有効な事業である。	
	必要性	◎	青少年のリーダー性を育むために，必要な研修である。	
	効率性	△	応募者数に対する参加者の定員が少なく，参加できない子どももいる。	
	公平性	△	各地域からの参加者にばらつきがある。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	954 千円	平成 26 年の取組み	研修内容をより充実させる。リーダーとしての更なる資質向上を図るために，ボランティア活動や発表の機会を計画的・継続的に設定する。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	事後報告書の内容や，育成者の感想から事業の効果が伺える。	
	方向性	b	研修地での安全確保について検討の余地がある。自然体験活動等の内容は継続していきたい。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して，実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して，実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して，実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く，このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが，事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課 社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	日置市青少年海外派遣事業			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 語学研修，異文化の学習等を通して自立心の向上及び幅広い視野と国際感覚を培い，次代を担う個性豊かでたくましい青少年の人材育成を図る。</p> <p>【事業の概要】 (1) 派遣先 アメリカ合衆国（カリフォルニア州・オレゴン州・ワシントン州の郊外ホームステイ） (2) 日 程 平成 24 年 7 月下旬から 8 月下旬までの 1 ヶ月間 (3) 日置市内に居住する中・高校生で未経験者が対象 (4) 募集人数 6 名。1 人当たり助成金は 249,000 円</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者数	6	6	6
	募集定員	8	6	6
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	5	5	5
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	次代を担うリーダーを育てるために有効な事業である。	
	必要性	◎	国際交流の機会の提供と国際感覚の醸成を図るために必要な研修である。	
	効率性	○	応募する人数が増加した。	
	公平性	△	市内の中学・高等学校に要項等を配布しているが，地域からの参加者にばらつきがある。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	1,494 千円	平成 26 年の取組み	異文化の学習を通して，幅広い国際感覚を培うことができた。市行事等の機会を活用して，積極的に広報を行っていく。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	参加した生徒は，国際感覚を身に付け，更にリーダーとしての意識高揚した。	
	方向性	a	定員に対する参加希望者の推移を検討し，事業を継続していく。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して，実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して，実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して，実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く，このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが，事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	学寮事業伊集院「ゆすいん学寮」			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 児童生徒が家庭を離れ、異年齢集団による宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自らの甘えや依存心を断ち切り、自主性・協調性・忍耐力・社会性等を培うとともに、家族の大切さを見直し、人間性豊かな青少年の育成を図る。</p> <p>【事業の概要】 伊集院地域内の小学5年生～中学生36名が、「ゆすいん」に5泊6日の日程で宿泊し、ゆすいんから学校へ通う。宿泊期間中の洗濯は自分たちで行い、初日の夕食と朝食2日分は、自分たちで作り後片付けも行う。宿題や予習・復習等も決められた時間に相互学習を行い、学寮期間中はテレビも見ない。また、研修として、婦人会との交流、市長講話、ALTとの交流、キャンドルサービスなども行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者数	36	36	36
	募集定員	36	36	36
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	異年齢集団、他校との交流などを含め宿泊生活の体験活動として有効である。	
	必要性	◎	自主性・協調性・忍耐力・社会性を培うために必要な体験活動である。	
	効率性	○	施設利用や送迎等も効率的に行われている。	
	公平性	○	行事との重なりがあるが出席ができるように配慮している。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	740 千円	平成26年の取組み	研修内容を改善し、魅力あるものにする。また、参加した児童生徒のボランティア活動の場を設定する。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	事業の趣旨を十分生かし、参加した児童生徒の自主性や協調性を育成することができた。	
	方向性	a	研修内容を改善、事業を継続する。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	学寮事業東市来「こけけふるさと学寮」			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 児童生徒が家庭を離れ、異年齢集団による宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自主性・協調性・忍耐力・社会性等を培うとともに、家族の大切さを見直し、人間性豊かな青少年の育成を図る。</p> <p>【事業の概要】 東市来地域内の小学5年生～中学2年生(募集定員30名)が、東市来文化交流センターに4泊5日の日程で宿泊し、東市来文化交流センターから各学校へ通う。宿泊期間中の洗濯は自分たちで行い、朝食・夕食は自分たちで配膳・片付けを行う。宿題や予習・復習等も決められた時間に相互学習を行い、学寮期間中はテレビも見ない。また、研修として、体験活動、国際交流員との交流、調理実習、本の読み聞かせ、輪読なども行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者数	18	30	18
	募集定員	30	30	30
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	異年齢集団、他校との交流などを含め宿泊生活の体験活動として有効である	
	必要性	◎	自主性・協調性・忍耐力・社会性を培うために必要な体験活動である	
	効率性	○	平成24年度から期間を1泊延長したが、現体制では長期間の対応が難しい	
	公平性	△	学校行事と日程が近い・部活と重なるなど、参加できない学年があった	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	155 千円	平成26年の取組み	魅力ある体験学習として、日吉～加世田自転車道の走破を実施。参加者の増につながった。	
5 評価	達成度	B	平日実施のために、部活動、少年団等に入っている子どもが参加できない。	
	方向性	a	場所、研修内容、参加者人数などを工夫改善し、継続していきたい。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課 社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	学寮事業日吉「ふるさと学寮」			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 子どもが家庭を離れ、異年齢集団による共同宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自主性・協調性・忍耐力・連帯感等を培い、感謝や思いやりのある心豊かな青少年の育成を図る。</p> <p>【事業の概要】 日吉地域内の小学5年生～中学生（1～3年）が、日吉研修棟「せつぺとべ館」に3泊4日の日程で、集団宿泊し、「せつぺとべ館」から学校へ通う。宿泊期間中の洗濯等は自分たちで行い、学校の宿題や予習・復習、自主学习等は、決められた時間内で相互学習を行う。また、研修として、スポーツ交流、世代間交流、地域の歴史学習（講話等）、ALTとの交流、ビデオ鑑賞、読書、等も行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者数	16	30	29
	募集定員	30	30	30
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	異年齢集団による共同宿泊生活の体験活動事業として有効である。	
	必要性	◎	自主性、協調性、忍耐力、連帯感等を培う事業として必要である。	
	効率性	○	募集人数にほぼ達している。	
	公平性	○	各小中学校、子ども会から応募があり、事業への理解が図られている。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	89 千円	平成26年の取組み	異年齢による集団宿泊体験活動を通して青少年健全育成事業であり、継続して実施すると共に、内容等の一層の充実を図る。	
5 評価	評価理由			
	達成度 方向性	A	目標値に近い参加が得られた。	
		a	研修内容等の充実を図り、継続して事業を実施していきたい。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	学寮事業吹上「ふるさと学寮」			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 児童生徒が家庭を離れ、異年齢集団による宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自らの甘えや依存心を断ち切り、自主性・協調性・忍耐力・社会性等を培うとともに、家庭の大切さを見直し、人間性豊かな青少年の育成を図る。</p> <p>【事業の概要】 吹上地域内の小学5・6年生26名が、吹上中央公民館に3泊4日の日程で宿泊し、学校へ通う。宿泊期間中の洗濯は自分たちで行い、朝食・夕食も自分たちで配膳・片付けを行う。宿題や予習・復習等の自主学習については決められた時間に相互学習を行う。また、研修として、輪読、創作活動、ALTとの交流、調理実習などを行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者数	24	20	26
	募集定員	20	20	20
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	○	異年齢集団、他校との交流などを含め宿泊生活の体験活動として有効である。	
	必要性	○	自主性・協調性・忍耐力・社会性を培うために必要な体験活動である。	
	効率性	△	期間の延長は職員配置の面から困難。宿泊場所を含めた実施方法についても現状では課題が多く、今後検討しなければならない。	
公平性	△	部活や少年団等の行事と重なり、参加できない学校・学年があった。また、一つの学校に集中しつづける。他地域との事業内容の整合性も取れていない。		
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	242 千円	平成26年の取組み	事業の効果をアピールし、応募者の数を増やす。また、事業目的を達成するために宿泊数を1日延長し、4泊5日とする。	
5 評価	評価理由			
	達成度 方向性	B	平日実施のために、部活動、少年団等に入っている子どもが参加できない。	
		a	場所、研修内容、参加者人数などを工夫改善し、継続していきたい。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	子ども会リーダー・育成指導者研修事業 伊集院			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 「子ども会リーダー及び育成指導者研修会」及び「キッズフェスティバル」を通して、子ども会リーダーや育成指導者の資質向上を図り、リーダーの役割、育成指導者の役割を認識するとともに、子ども会活動の充実・発展を図る。</p> <p>【事業の概要】 4月に「子ども会リーダー及び育成指導者研修会」を開催し、子ども会の役員及び育成会役員へ、子ども会活動のあり方についての研修を行う。また9月のキッズフェスティバルにおいては、青少年事業の参加者の報告、子どもによる子ども会活動の発表、レクリエーション、シンポジウムなどを行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者（子ども）	282	200	237
	参加者（指導者・育成者等）	196	200	206
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	子ども会のリーダー育成、指導者の資質向上のための事業として有効である。	
	必要性	◎	子ども会活動のあり方、指導のあり方の共通理解を図るために必要である。	
	効率性	△	育成・指導者等が毎年変わるので、活動への継続性が必要。	
	公平性	◎	ほとんどの子ども会からの出席があり、活動についての共通理解が図られる。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	0 千円	平成 26 年の取組み	子ども会の役員も指導者の方も毎年変わるところが多いので、内容を検討して研修会を続けていく。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	義務出会ではあるが、ほとんどの子ども会からの参加があり、子ども会活動も充実してきている。	
	方向性	b	中学生の参加が増えてきているが、部活や少年団への周知が十分にされていない。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	子ども会リーダー・育成指導者研修事業 東市来			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 「子ども会リーダー及び育成指導者研修会」及び「子ども会大会」を通して、子ども会リーダーや育成指導者の資質向上を図り、リーダーの役割、育成指導者の役割を認識するとともに、子ども会活動の充実・発展を図る。</p> <p>【事業の概要】 4月に「子ども会リーダー及び育成指導者研修会」を開催し、子ども会の役員及び育成会役員へ、子ども会活動のあり方についての研修を行う。また11月の「子ども会大会」においては、青少年事業の参加者の報告、子ども会会員による子ども会活動の発表、研究協議などを行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者（子ども）	248	255	231
	参加者（指導者・育成者等）	150	152	153
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	子ども会のリーダー育成、指導者の資質向上のための事業として有効である。	
	必要性	◎	子ども会活動のあり方、指導のあり方の共通理解を図るために必要である。	
	効率性	△	指導者が毎年変わるために、継続した研修ができない。	
	公平性	○	全子ども会からの出席があり、子ども会活動の共通理解が図られる。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	156 千円	平成26年の取組み	毎年、同じような研修内容となるが、子ども会役員・指導者も毎年変わるところがほとんどなので、研修会・子ども会大会を継続して開催していく。	
5 評価	評価理由			
	達成度 方向性	A	ほとんどの子ども会からの参加があり、各単位子ども会で、様々な活動に取り組んでおり、充実してきている。	
		b	子ども会活動において、中学生の参加が改善されてきているものの、部活や少年団との関係がまだ十分に理解されていない。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	子ども会リーダー・育成指導者研修事業 日吉			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 子ども会のリーダーが話し合い活動や野外活動等を通して、地域のリーダーとしての自覚を高めるとともに、子ども会相互の交流を深めることを目的とする。</p> <p>【事業の概要】 日吉地域内の単位子ども会（15）の中学生リーダー（新年度役員）を対象に、県立南薩少年自然の家を利用して、1泊2日の集団宿泊研修会を開催。研修では、単位子ども会において即活用できるレクリエーション実技の習得、リーダーとしての役割等についての講義や演習、年間活動計画等の話し合い活動や意見交換、人権学習、施設見学習等を行い、地域中学生リーダーとしての自覚を持たせるとともに、団体生活をとおして社会の規則やマナー等を学ばせる機会とする。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者（子ども）	35	36	35
	参加者（指導者・育成者等）	35	36	35
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	3	3	3
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	子ども会のリーダー育成・資質向上のための事業として有効である。	
	必要性	◎	子ども会リーダーの役割や活動のあり方等を学ぶために必要である。	
	効率性	○	対象リーダーのほぼ全員が参加している。	
	公平性	○	全単位子ども会（15）からの参加が得られている。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	87 千円	平成 26 年の取組み	青少年の健全育成やリーダーの育成を図るため、必要な事業であり、継続して実施すると共に、内容等の一層の充実を図る。	
5 評価	評価理由			
	達成度	A	中学生リーダーを中心にして、単位子ども会活動が充実している。	
	方向性	a	継続して事業を実施していきたい。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

教育委員会活動の点検・評価シート

担当課

社会教育課

点検評価項目	青少年事業の充実とリーダーの育成			
事業名	子ども会リーダー・育成指導者研修事業 吹上			
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 「子ども会育成指導者研修会」及び「子ども会大会」を通して、子ども会リーダーや育成指導者の資質向上を図り、リーダーの役割、育成指導者の役割を認識するとともに、子ども会活動の充実・発展を図る。</p> <p>【事業の概要】 9月と3月に「子ども会指導者・育成者研修会」を開催し、子ども会指導者及び指導者を対象に、子ども会活動のあり方についての研修を行い、子ども会主催の各行事の紹介、参加呼びかけも行う。また9月の子ども会大会においては、青少年事業の参加者の体験活動発表、子どもによる子ども会活動の発表、創作活動などを行う。</p>			
2 成果指標	指標項目	23 実績値	24 目標値	24 実績値
	参加者（子ども）	102	100	83
	参加者（指導者・育成者等）	55	50	44
	研修後の児童生徒の活用や研修報告の機会	2	2	2
3 事業の分析	分析結果	理由		
	有効性	◎	子ども会育成指導者の資質向上のための事業として有効である。	
	必要性	◎	子ども会活動のあり方、指導のあり方の共通理解を図るために必要である。	
	効率性	△	指導者が毎年変わるために、継続した研修ができない。	
	公平性	○	ほとんどの子ども会からの出席があり、年度の共通理解が図られる。	
※優◎良○可△不可×				
4 予算等	80 千円	平成 26 年の取組み	毎年、同じような研修になるが、子ども会の育成指導者の方も毎年変わるところが多いので、研修会を続けていく。	
5 評価	評価理由			
	達成度	B	指導者・育成者研修会の参加率は高いが、子ども会大会への参加率が半分くらいである。	
	方向性	b	子ども会活動において、中学生の参加がよくない、部活や少年団との関係がまだ十分に理解されていない。	
【評価】				
達成度				
A	目標値に対して、実績値が同じか改善されている。			
B	目標値に対して、実績値が若干下回っている。			
C	目標値に対して、実績値が相当下回っている。			
方向性				
a	現状の取り組みの方向性は良く、このまま事業を継続する。			
b	現状の取り組みの方向性は良いが、事業の手法の改善が必要である。			
c	事業の統廃合を含めた見直しが必要である。			

(2) 日置市教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第 1 条 この告示は、日置市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に置く外部評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業評価結果を審査すること。
- (2) 事務事業評価制度の改善について教育委員会に意見、提言を行うこと。

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者について教育委員会が委嘱する。

- (1) 市内高等教育機関関係者のうち、知見を有する者
- (2) 市内企業関係者のうち、知見を有する者
- (3) 社会教育、社会体育及び芸術文化関係者のうち、知見を有する者
- (4) 前 3 号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第 4 条 委員の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第 5 条 委員会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会議を総理し、委員会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、教育委員会教育総務課において処理する。

(その他)

第 8 条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、平成21年4月1日から施行する。